沼津市
明治史料館通信

1995. 10. 25（季刊 年4回発行）Vol. 11 No. 3　通巻第43号

ぬまづ近代史点描 ㉘

ポール・ジャクレーと内浦

ポール・ジャクレー（一八九六～一九六〇）は戦前から戦後にかけ日本で活躍したフランス人版画家である。パ（次ページに続く）

ポール・ジャクレー　「勇ましい漁師」　1939年
（当館所蔵）

彼が愛してやまなかった内浦の風光と漁師を描いたものであろう

ポール・ジャクレー　24歳
（秋山太郎氏提供）

裏面に「大正九年二月十三日 仏国大使館員宝瑠若礼　秋山ゑつ子様」とある

（前ページより）リに生まれたが、父が東京外国語学校教師になった関係で明治三十二年（一八九九）に来日、東京で成長した。日本の伝統文化に心酔し、日本画や義太夫を習い玄人の域に達した。特に浮世絵に深い関心を寄せ、昭和八年（一九三三）には東京に版画研究所を開設、彫師・摺師を抱えて、自分は絵師と版元を兼ねるという方式で自作の版画を次々に発表していった。

彼が沼津市内浦地区と浅からぬ関係があることはあまり知られていない。父が内浦村に別荘を求めようとしたことが契機で、幼少時代から同地を訪れていたらしく、青年になってからも大正から昭和戦前期にはたびたび滞在した。三津の林鐘寺に長く逗留したほか、三津の大川家、重寺の秋山家などに親しく出入りした。秋山家には、日露戦争に出征中の当主にあてポール少年が片仮名でたどたどしく書いた慰問文をはじめ、村人に義太夫を公演した際の手書きのポスターなど、同地との交流を示す資料が多数残されている。

江原素六とその周辺〈24〉

クリスチャン村長　江原米作

江原素六は戊辰戦争に際して賊軍の汚名を着たことをはばかり、その後弟に家を譲った。

その弟は江原義次（旧名鉦次郎、一八五〇～九九）といい幕末には幕府の横浜語学所に学び維新後は開成学校の教授になった人物である。義次については本通信第17号で紹介したことがあるが、その後、彼の旧名が「鉦次郎」であったことが新たに発見された史料から確認された（襖の下張の中に「一弟江原鉦次郎義次」と記された素六直筆の断簡があった）。

彼には子がなかったためその死後、養子があとを継ぐことになった。義次の没年は『江原素六先生伝』（一九二三年）では明治二十五年とされているが、明治三十二年八月十九日の誤りである。

そしてその翌年、養子として江原家を継いだのが米作（一八六九・一・四～一九四五・一・二九）である。米作は駿東郡鷹根村柳沢の長倉家の生まれ。同家は源頼朝の弟阿野全成の四天王の子孫と称する旧家であり、近世には名主をつとめた。米作の父藤三郎（昭和三年没、九十二歳）は戸長もつとめた人である。兄の銀太郎（明治四十年没、四十三歳）は鷹根村の初代農会長や村会議員をつとめたり根方銀行（現スルガ銀行）の設立発起人にもなった有力者。甥すなわち銀太郎の子敏夫（昭和十四年没、五十一歳）、同じく甥、正確には姪の夫詮郎の二人はいずれも愛鷹村長をつとめた。

米作は駿東郡・富士郡などで小学校の訓導を長くつとめた。地元鷹根尋常高等小学校には明治三十一年（一八九八）から四十五年（一九一二）、大正八年（一九一九）から十四年（一九二五）の二回にわたり勤務している（『翔雲』）。妻のひろも同校で代用教員をつとめている（「鷹根村誌」）。明治四十三年（一九一〇）に鷹根村青年会が創立された際はその幹事になっている。

米作は明治二十二年（一八八九）に留学のため渡米した際、奇病に

江原米作
（長倉稔氏提供）
愛鷹村長在職中、昭和15年（1940）の紀元2600年に際して

新渡戸稲造書「江原家之墓」
（沼津市駿河台）

かかってしまったのが契機となり、河辺貞吉牧師の勧めによってキリスト教に入信していた（以下教会関係の記述は『沼津教会百年史』『香貫教会五十年の歩み』による）。帰国後教員になってからも沼津メソジスト教会（現日本基督教団沼津教会）に所属し、青年共励会という組織の中心メンバーとして教勢拡大を図ったり、大正二年（一九一三）の大火によって焼失した教会の再建に尽力したり、教会の重鎮として活躍した。「大正六年頃病妻を馬力車に乗せ自分は馬のくつわを引いて一里半の道を礼拝に通って来たのは実に感動的な情景であった」という。妻ひろを大正十二年に失った後は、大友良牧師の伯母みどりを後添に迎えた。

その後、米作は事情によりメソジスト教会から離れたが、昭和三年（一九二八）にできた日本基督教団沼津伝道教会（現日本基督教団香貫教会）の愛鷹村伝道に同村東原の自宅を提供するなどの協力をし、昭和六年（一九三一）には妻とともに同教会に転入した。

愛鷹村長長倉敏夫は叔父の米作の影響で入信していたが、昭和十四年（一九三九）在職中に死去した。甥の急死により米作が七十歳の高齢で第十四代愛鷹村長に就任することとなった。長倉村長は当時国策として進められていた満州農業移民政策に取り組み、自ら満州を視察するなど熱心に分村移民計画を推進していたが、その死により米作が計画を継承する立場となった。しかし移住希望者がなかなか集まらずこの計画は思うように進まなかった（中村政則・陳野守正「愛鷹村満州農業移民」『沼津市史研究4』）。

昭和十六年（一九四一）十一月には村長を辞任し、二十年（一九四五）一月に亡くなった。墓は沼津市駿河台のキリスト教墓地内にあり、新渡戸稲造の筆になる「江原家之墓」の文字が刻まれた墓石が立つ。

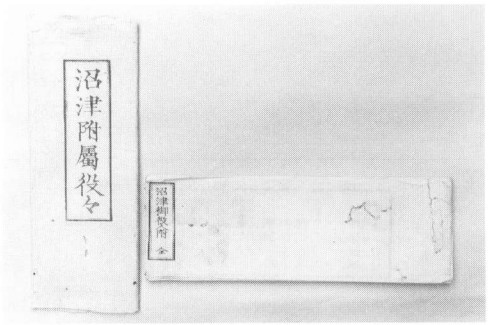
現在、江原素六関係文書の中には伯父素六にあてた米作の書簡数通が残るが、講演や揮毫の依頼、同僚教師の転勤先の依頼などに関する内容である。

シリーズ　沼津兵学校とその人材　40

『沼津御役人附』の異版

明治二年に作製された沼津駐在の静岡藩役職者の名簿ともいうべきものが「沼津御役人附」である。沼津兵学校の教授・職員・生徒の名前を知るための基本的な原史料でもある。静岡藩全体の職員名簿「静岡御役人附」に対し、「沼津御役人附」の存在は、兵学校と軍事掛が置かれた沼津の藩内における特異性を示している。

木版で印刷された横長の小冊子であり、全二十四丁からなる。この史料についてはかつて沼津市立駿河図書館が写真版と翻刻を付して復刻したことがあるが（一九八〇年、図書館郷土資料叢書11）、復刻にあたっての原本とされたのは大野虎雄氏旧蔵本、私立富士文庫所蔵本の二種類であった。



清水家旧蔵本「沼津御役人附」
（市史編さん係所蔵）

しかしその後それ以外にさらに二種類の異版が発見された。間宮恒夫家所蔵本と清水春江家旧蔵本の二種類である。二軒とも沼津宿の本陣をつとめていたため入手したものと考えられる。

1、清水家旧蔵本

これが四種の中で最も古いオリジナルと思われる。「沼津附役々」と表に、「御役名筆順前後之儀者御用捨可被下候　売買堅ク不許弐百冊限リ絶板」と裏に木版で印刷された包紙も付いている。これを初版であるとする理由は、他の版では削除されている箇所に人名が入っている点（三丁目の江川隼太、二十丁目の安藤勝太郎）、他の版で

は訂正された誤字や改名前の名前が掲載されている点（坂本復三・高原貴多・小西敬三・平野雄次郎・平岡鎮太郎・榊全一・江間情一・島田捨一・小野沢敬三・長谷部彦逸はそれぞれ復之・喜満多・敬之・雄三郎・芋作・令一・精一・揆一・敬之・彦造と他版では訂正されている）等である。

2、大野家旧蔵本

これが二番目の版であると考えられる。明治三年二月に大阪陸軍所に出仕し沼津を去った沼津勤番組一番頭頭取河津三郎太郎（祐賢）の名前がまだ掲載されている点が3、4よりも前の段階のものであるとする理由である。

3、間宮家所蔵本

、河津三郎太郎の後任に高木幹枝が入り、高木の旧役である三番頭世話役が空欄になっている。

4、富士文庫本

間宮家所蔵本とほとんど同じであるが、三番頭世話役に青木五十五郎の名前が入っている。なお、2と4とのあいだにはさらに幾つかの異動があるが、その点は駿河図書館復刻版を参照のこと。

お知らせ欄

◎企画展「昭和の戦争と沼津」の終了について

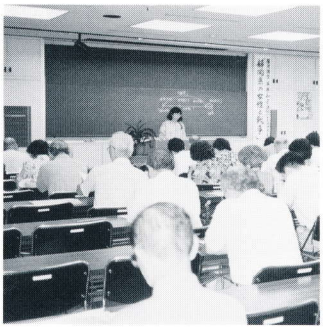
7月1日から9月29日まで開催していた企画展「昭和の戦争と沼津」は好評のうちに終了いたしました。戦後五十年ということで観覧者の関心も高かったようです。

同じテーマでの歴史講座や戦争史跡めぐりも、参加者に感銘を与えるところが大きく、有意義なものとなりました。

◎東京都立沼津戦時疎開学園の同窓生の皆さんが来館しました

企画展「昭和の戦争と沼津」が始まった7月1日、昭和十九年から二十年にかけて東京都赤坂区（現港区）の5国民学校から沼津市我入道に疎開していた児童の皆さん約五十名が来館、企画展の中で展示された当時の学園のようすを撮影した写真を観覧されました。

他の一般的な学童集団疎開とは違い、同学園の皆さんには悲惨な思い出はなく楽しい記憶ばかりとのことで、懐かしい思い出に話をはずませていました。

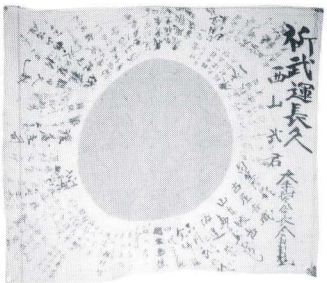


歴史講座のようす

来館した赤坂沼津学園同窓会の皆さん

◎企画展「昭和の戦争と沼津」に際し多数史料が寄贈されました

企画展「昭和の戦争と沼津」には多くの資料が提供されましたが、それらの中からその後少なからぬ資料を寄贈いただきました。これらの資料は大切に保存し、常設展示の中で紹介したり、今後同様の企画を行う際に活用させていただき、二度と愚かな戦争を繰り返さないための歴史的な証拠品として役立たせていただきます。



寄贈された戦争関係の史料
▲出征祝いの日の丸寄せ書

◀女学生が描いた「大陸の花嫁」募集ポスター

◎市史編さん係の当館内移転について

九月一日、市史編さん係が当館2階の資料閲覧室内に事務所を移転しました。資料閲覧室はこれまで通りご利用いただけます。

沼津市明治史料館通信　第43号
編集　沼津市明治史料館
発行
〒410 沼津市西熊堂三七二―一
電話 〇五五九―二三―三三三五
FAX 〇五五九―二五―三〇一八